

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 興味をもったことをしょうかいしよう 「ウミガメの命をつなぐ」

2 単元について

(1) 教材について

「ウミガメの命をつなぐ」は、ウミガメの生態を明らかにし、保護しようとする研究を続ける名古屋港水族館の取り組みについて書かれた説明文である。本単元は、教材文を読み、興味をもったことを要約して紹介することを目的とした単元である。

本教材は、これまでの説明文のような、大きな問いが設定され、それを解明し、結論や主張にたどりつくという形式ではない。名古屋港水族館のウミガメを保護するための長年の取り組みが具体的に述べられ、最終段落では、水族館の役割に目を向けた筆者の考えがまとめられている。また、写真や表、図などが多く使われたり、西暦・年号が示されたりし、内容理解を手助けする役割を果たしている。

水族館などでウミガメを見たことがある児童はたくさんいるが、そのウミガメが全て「絶滅のおそれがある動物」に指定されているということを知り驚く子どもも少なくないだろう。除々に明らかになるウミガメの生態に興味を抱き、水族館の果たす役割を見直す児童も多いだろう。

(2) 本単元で身に付けさせたい力と言語活動

本単元を通して、「読むことC」(1)ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることと、「読むことC」(1)ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することに関する力を付けさせたい。

本単元では、興味をもったことを要約して紹介する活動を位置づける。友達やお家の人に向けて、ウミガメの生態や名古屋港水族館の取り組みなどについて紹介するために、教材文を読み、教科書に載っている図や表を引用したり、短い文章に要約したりしてまとめていく。児童それぞれが興味をもつことは違うため、紹介文の内容も変わってくる。児童は紹介文を書くために主体的に文章を読む必要がある。

しかし、児童が要約をするのは本教材が初めてであり、要約の仕方を十分に理解しなければ、紹介文を書くことができない。まずは、教科書17ページの「ここが大事」を読んで要約の仕方を確認したり、紹介文のモデルを提示したりしたい。次に、文章構成がどうなっているのかを接続詞や形式段落を手がかりにして全体で確認したい。文章構成が理解できれば、自分が興味をもった内容もどこを読めばよいか見当をつけやすくなると考える。

また、要約するためには、大事な言葉や文章に着目させる必要がある。大事な文章を選んだり、キーワードをしぼったりする場面で、児童の意見交流の場をつくり、自分の考えを深めていく一助としたい。自分の考えをもって交流することで、友達との共通点や相違点に気付き、根拠となる部分を話し合うことができると考える。要約文に必ず入れる言葉や内容を確認したり、字数制限をしたりすることで、要約の仕方を学べるようにする。中心に書いていく言葉や文を明確にすることができれば、どの児童も自信をもって要約することができると考える。

3 児童の実態

(省略)

4 単元の目標

- 興味をもったことをもとに進んで文章を読み、友達と意見を交流したり、要約したりしようとする。 (関・意・態)
- 興味をもったことを紹介するという目的に合わせて、段落相互の関係や、事実と意見との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 (C読むこと(1)ア)
- 興味をもったことを紹介するという目的を意識して、教材文から中心となる語や文を見つけて要約することができる。 (C読むこと(1)ウ)

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	国語についての知識及び技能
・紹介文を書くという目的に応じて、興味をもったことをもとに文章を要約しようとしている。	・目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読んでいる。 ・目的に応じて、要点に注意しながら読み、文章を引用しながら興味をもったところを要約している。	・紹介文を書く際、内容に即した叙述の仕方があることに気付いている。

6 指導計画 (9時間)

	学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (◇)
一次	1 ・「ウミガメの命をつなぐ」を読み、初発の感想を書く。	○ここで興味をもったことや感心したことが、この後の学習に生きていくことを伝え、感想を書く際の観点を示す。
	2 ・教師の作った紹介文のモデルを見て、紹介文の書き方を知る。 (モデルは「花を見つける手がかり」の紹介文)	○児童が学習のゴールをイメージしやすくするために、教師自作の紹介文を見せる。 ○紹介文を書き、友達やお家の人に読んでもらうことを知らせ、目的意識をもたせる。
二次	3 ・教材文がどのような内容で構成されているのかを確認する。	○形式段落や接続詞などを意識させながら、文章構成を考えていけるようにする。 ○名古屋港水族館の3つの取り組みが紹介されていることをおさえる。 ◇中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読んでいる。 (ワークシート)
	4 5 ・「名古屋港水族館の新たな取り組み」について要約する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 〈要約のポイント〉 ① 中心文を見つける ② 図・表の読み取り ③ 残す言葉・けずる言葉 ④ つなぎ言葉 </div>	○P17「ここが大事」や、教師の作った紹介文を見て要約の仕方を確認する。 ○要約のポイント4つを提示し、実際に全体で確認しながら要約する。
	6 ・自分が興味をもったことを明確にし、要約する内容を決める。 ・要約するときに必要な言葉を見つける。	○初発の感想や、前時までの読みを通して興味をもったことを選ぶようにする。 ○要約するために必要な言葉や文を探し、サイドラインを引く。

	7 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 要約の仕方を確認し、サイドラインを引いた言葉や文をもとにして、要約文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中心となる言葉や文を使って要約文を書くよう伝え、文字数を指定してその中でまとめられるようにする。 ◇目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり、要約したりしている。(要約文)
三 次	8	<ul style="list-style-type: none"> 要約した文章や、興味をもったこと、感想などを入れ、紹介文を書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 始め・・・興味をもったところ 中・・・その部分の要約 終わり・・・感想 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○始め・中・終わりの構成と、書く内容を確認する。 ◇書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて紹介文を書いている。(紹介文)
	9	<ul style="list-style-type: none"> 紹介文をお家の人や友達に読んで伝える。 友達の紹介文のよいところを見つける。 単元の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに紹介文を発表し合い、感想を伝え合うようにする。 ○友達の紹介文のよいところを内容に触れて伝えられるようにする。 ◇進んで紹介文を読み、友達と感想を交流しようとしている。(発言・カード)

7 本時の展開 (7/9)

(1) 本時の目標

- 進んで文章を読み、友達と意見を交流したり、要約したりしようとする。(関・意・態)
- 自分が興味をもったことについて、要点に注意しながら読み、文章を引用したり、要約したりすることができる。(読)

(2) 展開

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (◇)
1 本時の学習のめあてをつかむ。	○学習計画や前時までの学習の流れを掲示しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 自分が興味をもったことについて要約しよう。 </div>	
2 興味をもったことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ウミガメの長い旅 名古屋港水族館の取り組み (人工のすなはま・放流) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習でサイドラインを引いたところを確認する。 ○興味をもったところによって要約文の内容も変わってくることを伝える。
3 要約に必要な言葉や文をグループで交流して確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○興味をもったことが近い3人のグループを作り、交流ができるようにする。 ○共通点や相違点を見つけ、なぜ大事だと思うか根拠を話し合えるようにする。 ◇進んで文章を読み、友達と意見を交流したり、要約したりしようとしている。(発言)

4 要約のポイントを確認する。

〈要約のポイント〉

- ① 中心文を見つける
- ② 図・表の読み取り
- ③ 残す言葉・けずる言葉
- ④ つなぎ言葉

5 サイドラインを引いた言葉や文をもとに自分が興味をもったことについての要約文を書く。

(例) ウミガメのせなかに送信機をつけると、人工衛星に向けて電波を出す仕組みになっていて、ウミガメの位置を記録することができる。その行動を調べてみると、ほとんどのウミガメが海流に乗ってハワイの北西まで行き、しばらくそこにとどまって成長することがわかった。そして成長すると、自分の力で泳いで日本にもどってくる。

6 書いた要約文を発表する。

○「名古屋港水族館の新たな取り組み」の要約をした時のことを想起させる。

○要約には字数制限があるので、引用するだけでなく、自分の言葉で短く言い換えることも必要であることを伝える。

○ワークシートを使って、中心となる言葉や文を入れながら要約できるようにする。

○書くのが難しい児童には、サイドラインを引いた文を書き出し、まとめられるようにする。

○早く書き終わった児童には、書いた内容をもう一度読み返し、推敲させる。

◇自分が興味をもったことについて要点に注意しながら読み、文章を引用したり、要約したりしている。
(ワークシート)

○何人かの児童の要約文を読み、それぞれのよさを感じられるようにする。